

## 平成27年12月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,289	8,782	4,430	4,352	6	11
2 千 石	3,883	6,751	3,390	3,361	△ 6	△ 4
3 内 山	5,087	7,335	3,882	3,453	△ 8	△ 8
4 大 和	3,312	6,570	3,241	3,329	△ 2	14
5 上 野	7,163	15,376	7,651	7,725	△ 6	0
6 高 見	7,059	13,209	6,355	6,854	△ 9	△ 17
7 春 岡	6,713	10,783	5,672	5,111	△ 3	△ 11
8 田 代	11,271	21,453	10,299	11,154	2	△ 6
9 東 山	10,132	19,299	9,530	9,769	△ 4	4
10 見 付	4,604	8,536	4,322	4,214	△ 7	△ 7
11 星ヶ丘	3,447	6,740	3,073	3,667	△ 1	9
12 自由ヶ丘	3,514	7,334	3,344	3,990	△ 4	2
13 富士見台	6,383	15,452	7,177	8,275	△ 15	△ 13
14 宮 根	3,758	8,437	4,042	4,395	9	12
15 千代田橋	3,590	8,633	4,024	4,609	△ 13	△ 20
<b>千 種 区 計</b>	<b>85,205</b>	<b>164,690</b>	<b>80,432</b>	<b>84,258</b>	<b>△ 61</b>	<b>△ 34</b>
H26.12.1	82,739	163,724	79,772	83,952	△ 67	△ 45
<b>対 前 年 比</b>	<b>2,466</b>	<b>966</b>	<b>660</b>	<b>306</b>	<b>6</b>	<b>11</b>
名古屋市長	1,059,899	2,298,170	1,134,481	1,163,689	613	770
愛知県 (H27.11.1)	3,070,325	7,463,771	3,730,549	3,733,222	3,647	3,242

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減
	116	121	△ 5	681	710	△ 29

【参考】

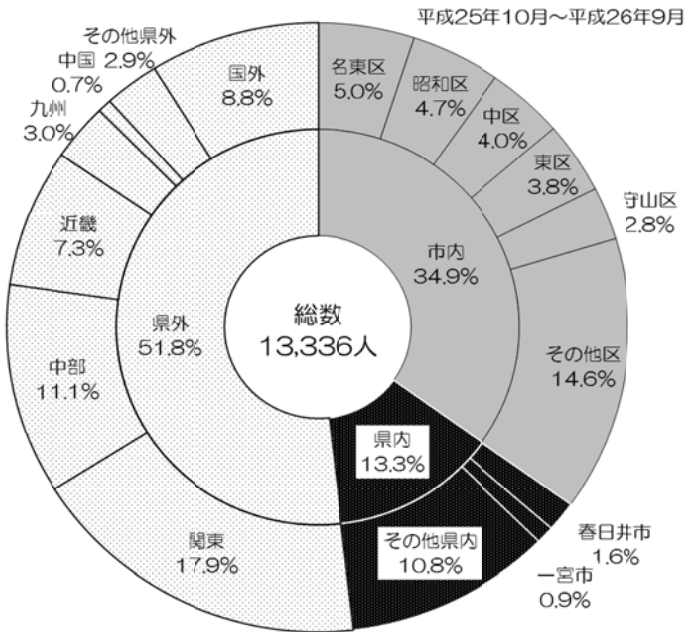
国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	これまでの最少人口	
平成2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

- 注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果の本市独自集計速報値であり、後日総務省から公表される数値とは異なる場合がある。
- 注2) 転入・転出には、転居（区内異動）を含む。  
統計なごやweb版 <http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/67-5-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

## 千種区の地域別転入・転出者数の状況

平成27年12月1日現在の千種区の人口は前月に比べ34人減の164,656人となっており、世帯数は前月に比べ61世帯減の83,693世帯となっています。今回は千種区の転入・転出者数の状況を、名古屋市内、愛知県内および愛知県外に分けて見ていきます。

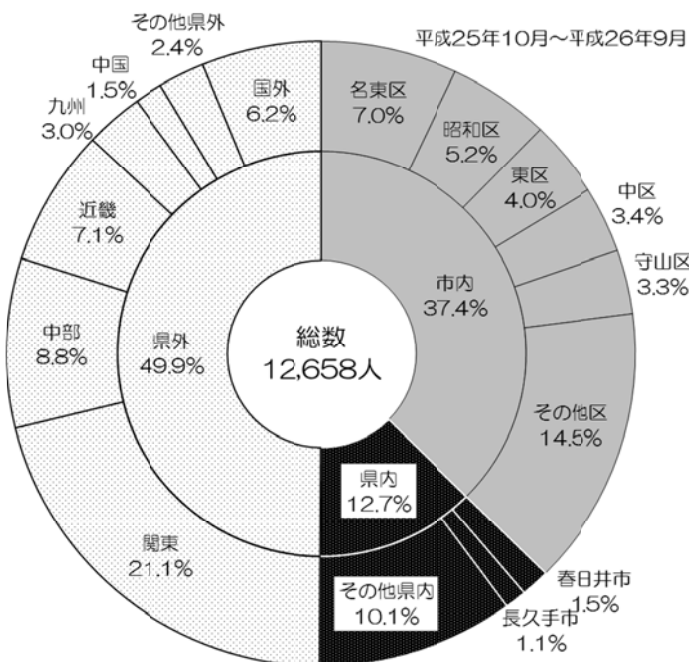
図1: 千種区の地域別転入者数の割合(%)



平成25年10月から平成26年9月までの千種区の転入者は、市内間の異動を含めると、13,336人でした。転入元を地域別に見ると(図1)、愛知県外からの転入者は51.8%と全体のおよそ半分を占めています。内訳は関東地方が17.9%と最も高く、中部地方11.1%、近畿地方7.3%、九州地方3.0%、中国地方0.7%と続きます。愛知県内からの転入者は13.3%と全体の1割強を占めており、春日井市が1.6%と最も高く、一宮市が0.9%と続きます。名古屋市内の転入者は34.9%と全体の3割強を占めており、名東区が5.0%と最も高く、昭和区4.7%、中区4.0%、東区3.8%、守山区2.8%と続きます。また、国外からの転入者数は全体の8.8%となっており、近畿地方からの転入者数(7.3%)を上回りました。

※1 中部地方は愛知県を除く。県内は名古屋市を除く。  
 ※2 比率は小数点以下第2位で四捨五入した。

図2: 千種区の地域別転出者数の割合(%)



平成25年10月から平成26年9月までの千種区の転出者は市内間の異動を含めると、12,658人でした。転出先を地域別に見ると(図2)、愛知県外への転出者は49.9%と全体のおよそ半分を占めています。内訳は関東地方が21.1%と最も高く、中部地方8.8%、近畿地方7.1%、九州地方3.0%、中国地方1.5%と続きます。愛知県内への転出者は12.7%で、春日井市が1.5%と最も高く、長久手市が1.1%と続きます。名古屋市内の転出者は全体の37.4%を占めており、名東区が7.0%と最も高く、昭和区5.2%、東区4.0%、中区3.4%、守山区3.3%と続きます。また、国外への転出者数は全体の6.2%となっています。

※1 中部地方は愛知県を除く。県内は名古屋市を除く。  
 ※2 比率は小数点以下第2位で四捨五入した。